



繪本異國一覽

三



特別
~13
3425
3



18
3425
3

畫本異國一覽卷之叁



- 唵蘭陀國
- 佛良察國
- 的里亞迦國
- 亞瑪作搦國
- 諳入利亞國
- 孛露國
- 沙刺國
- 婆羅斯國
- 昆吾國
- 羅得島

昭和廿五年
一月廿二日

○ 啗北蘭陀國

風俗人物世の人のよく知
 不る人。さて此の國を
 みておらん人。さういふ
 さまに、はたのまじい
 本や、新傳、説の善き
 板に、今でひびくこと
 かねたこと、さういふ
 みる、三十世界の
 知る、やういふ、なげ
 天、ま、い、ぬ、人、北極の
 地、を、尋、り、地、を、知、る
 者、も、さ、う、い、ふ、の、ま、じ、い、候、を
 信、じ、ら、る、と、い、ふ、也、



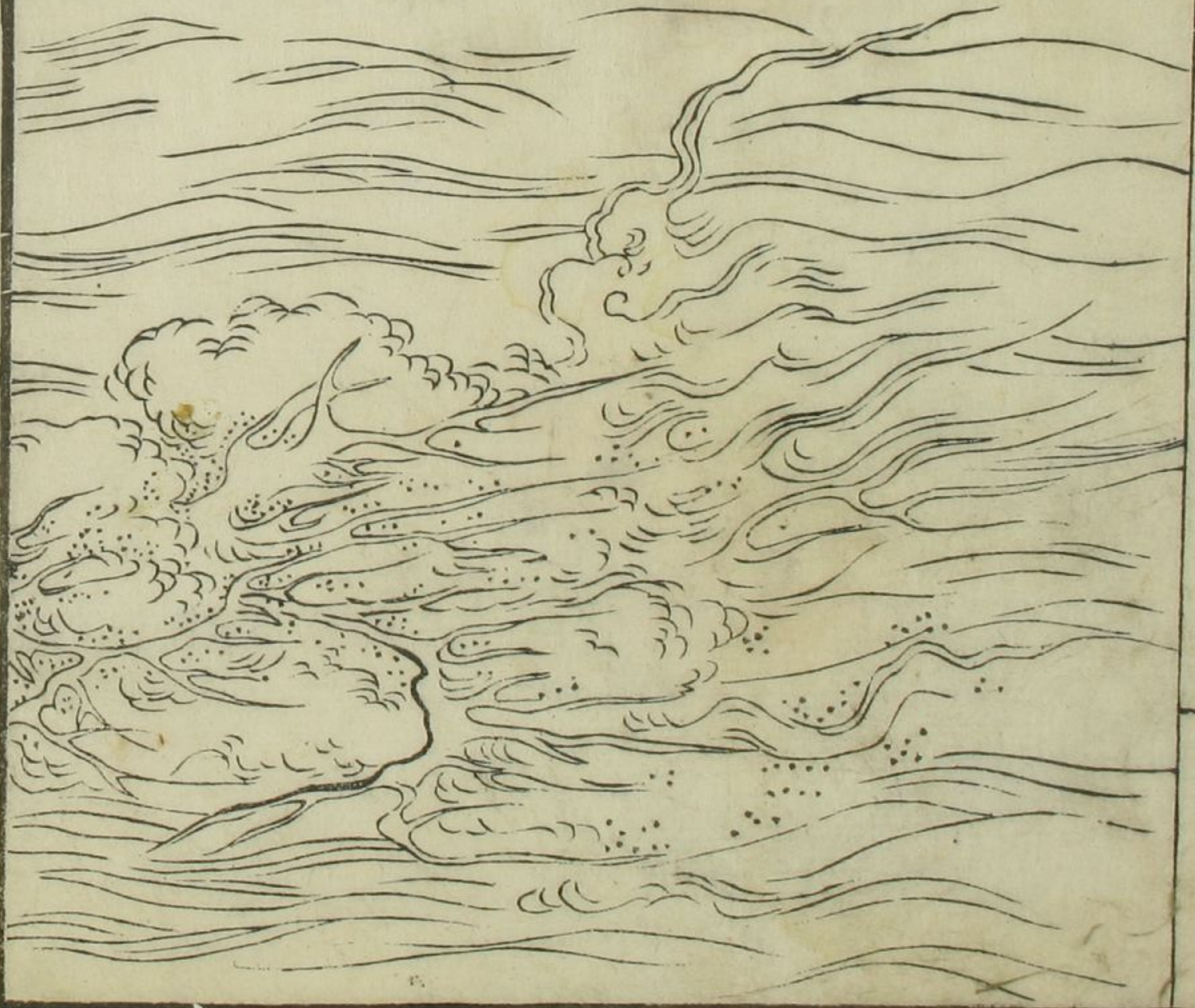
○ 仲方の後、法よほを
 せし、金と、子と、おぼせ
 ヤリ、て、さ、う、い、ふ、と、い、ふ、と
 信、じ、り、言、は、れ、や、と
 ら、な、ら、ん、と、い、ふ、也、

のひらうまひれ
 おんげまぐさ
 ことウニユル
 とうんてん
 説、の、ニ、ツ
 ポコ、と、い、ふ
 つ、か、く、と
 ぼ、て、ら、う
 カ、ス、テ、イ、エ
 か、す、て、ら、う
 う、み、か、ぬ、ち、う
 ん、だ、さ、ま、あ
 の、か、の
 だ、い、



○拂良察示國

ちらんごの南は海
 大なるり敷を抱理
 斯とく入はる異物の
 奇巧不思議の創意を
 下とて産物に鹿野麝香
 本置物環隄珍土物の
 多しとく 蜈蚣船を
 造りて船は石火を
 ちんちん風をまき海上
 走るごとくなりて尾は
 てしとくつふをばはる尾
 火のけりてしつとつし
 びりて居られぬとを尾

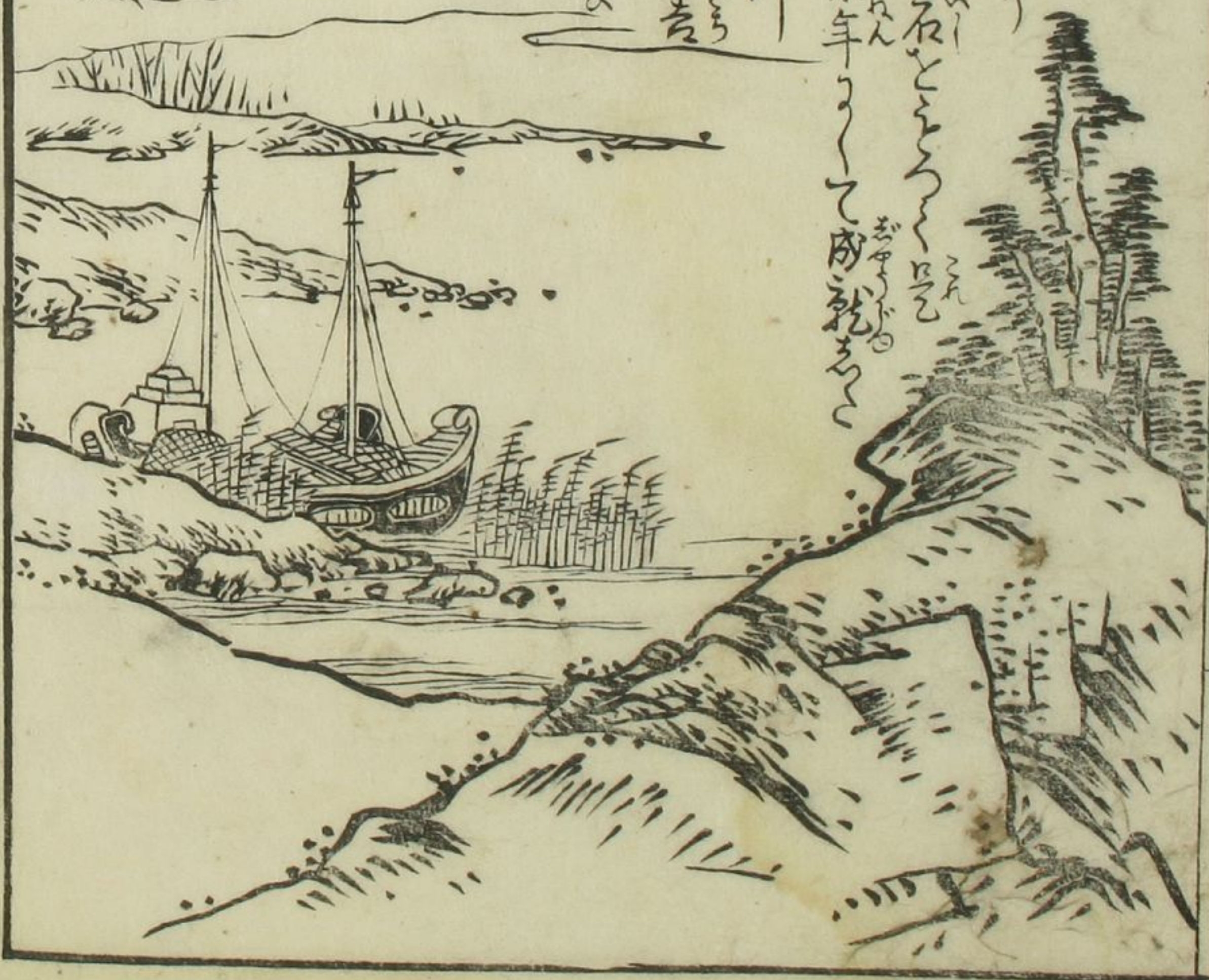


心がほしむたると
 つらむもまこのは
 からい
 出せる
 るり

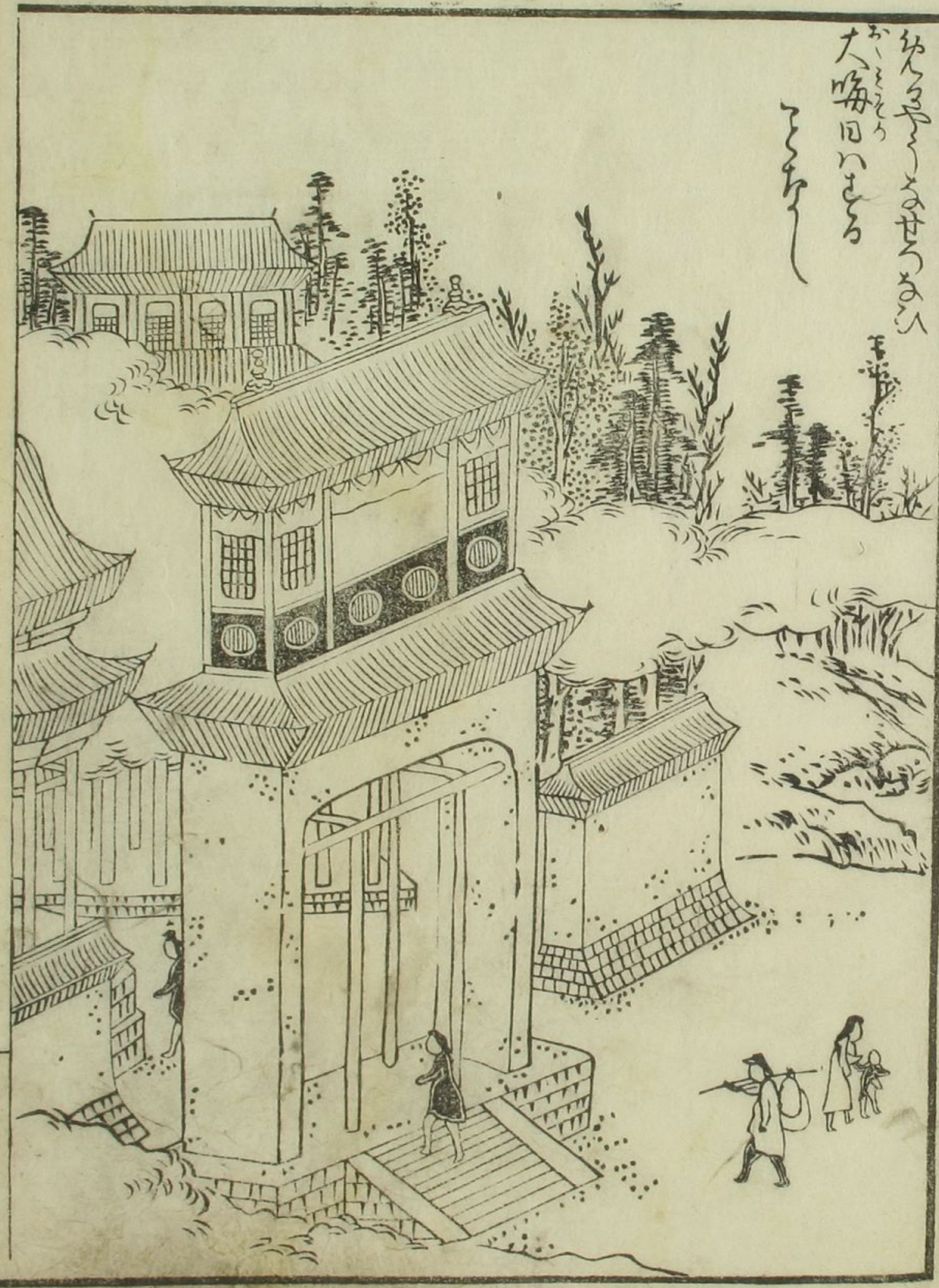


○亞瑪作搦國

國中又高さ四十余丈の廟あり
 廟の柱數四十五本まゝ白き石とて
 造るこの寺はあつて二百余年
 たりと云ふ海に七寺の其い
 たりは此の人のまゝく石敷金
 毛のまゝかまかま人物とて石
 石の根はまゝとてまゝとて
 後るやうなまゝとてまゝとて
 ちせぬ也石のうらのやとて
 つつし二年まゝとて居ぬ
 りてやうく石とてまゝとて



幼らやうとせらるゝ
 大晦日いさる
 〜〜〜



○字露國

南亞墨利加の
る大熱なる
人樹の下石の
よ居て水を
ど又男も乳の
かさなり婦人の
けは取来せし
りるこれを穿
日の鐵を志の
やたよを
身命を
余年を



つたま
ハナ
とら
そのと
子
り



○ 沙刺國

大王

國王

りう 塚 察と

つふち

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま



ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで

ついで



○婆羅斯國

又葛斯歌日亞

つりは必男を

も勇力ありて

ほくは長劍と帶と

人そこ行へ財宝を

うごいて他へよそへ

一ヶ月とてそへ

あつかひする

又ゆきちひのけん

くこまじふたむぢ

けいさつとて

こひらけとて

とてぬい



つりは必男を

も勇力ありて

ほくは長劍と帶と

人そこ行へ財宝を

うごいて他へよそへ

一ヶ月とてそへ

あつかひする

又ゆきちひのけん

くこまじふたむぢ

けいさつとて

こひらけとて

とてぬい

とてぬい

とてぬい

とてぬい



○昆吾國

昆吾の法は、
とてこの法を、
海とせむる、
五ノ府を、
あらん人の、
手とて、
一言法、
火とて、
とて、
林とて、
釋とて、
告とて、
とるれ、



おんた



○羅得島

地中海より西にありて法蘭西の
南にありて豊饒
地なりその島の北は海にありて
西にありて西にありて西にありて
西にありて西にありて西にありて



その島の北は海にありて
西にありて西にありて西にありて
西にありて西にありて西にありて
西にありて西にありて西にありて

とありて西にありて西にありて

橋本市太郎

